

氏名	藤原 雅樹
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5669号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Association Between Serious Psychological Distress and Nonparticipation in Cancer Screening and the Modifying Effect of Socioeconomic Status: Analysis of Anonymized Data From a National Cross-Sectional Survey in Japan (重度の心理的苦痛とがん検診未受診の関連及び社会経済的要因の修飾効果：国民生活基礎調査匿名データによる横断研究)
--------	--

論文審査委員	教授 土居弘幸	教授 岡田裕之	教授 堀田勝幸
--------	---------	---------	---------

学位論文内容の要旨

海外ではうつや不安などの心理的苦痛を抱える者はがん検診受診率が低いことが報告されており、公衆衛生上の課題として認識されているが、わが国では心理的苦痛とがん検診受診率の関連は報告がない。そのため、統計法第36条に基づき、厚生労働省から平成22年国民生活基礎調査の匿名データの提供を受けて、K6によって評価した重度の心理的苦痛と過去1年間の大腸・胃・肺がん検診受診、過去2年間の乳・子宮頸がん受診の関連を横断研究デザインにて調査した。その結果、重度の心理的苦痛を抱える者はそうでない者と比較して、過去1年間に大腸・胃・肺がん検診受診したものが有意に少なかった。また、教育歴、婚姻状況、就労状況によって心理的苦痛とがん検診受診との関連に違いがあるかを解析したところ、教育歴のみが有意な修飾効果を有し、教育年数が相対的に短い場合に、重度の心理的苦痛ががん検診未受診と関連した。

論文審査結果の要旨

抑うつや不安等の心理的苦痛を抱える者は、がん検診の受診率が低いことが先行研究で報告されているが、殆どが欧米で行われた研究で、日本人を対象とした研究はない。

本研究は、平成22年国民生活基礎調査の匿名化された個別データを解析したナショナルデータ分析であり、サンプル数、質とも国際的に信頼されるデータである。しかし、同調査は、心理的苦痛を評価する国際的な評価指標K6が組み込まれており、本研究仮説を検証する優良なデータである。

本研究によって、重度の心理的苦痛を有する者は、調査前1年間の大腸、胃、肺がん検診の受診行動に負の影響を与えることが示唆された。日常診療で、重度の心理的苦痛を抱える患者を多く診療している精神科医療機関において、がん検診の受診や、適切な受療行動を取るよう指導することは、がん対策を進める上で、重要であることが明示された研究である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。